第２　米穀の需給の見通しに関する事項

１　平成25／26年の需要実績

⑴　需要実績の対象期間及び対象米穀

米穀の需要実績については、前年７月から当年６月までの１年間について算出することとしています。

また、需要実績の算定の対象となる米穀は、国内で生産された水稲うるち米及び水稲もち米から、需要に応じた米生産の推進に関する要領（平成26年４月１日付け25生産第3578号農林水産省生産局長通知）第３において生産数量目標の外数として取り扱う米穀等として定める加工用米その他主食用に充当されない米穀を除いた米穀（以下「主食用米等」という。）としています。

⑵　算出方法

需要実績は、平成25年産主食用米等生産量、平成25年６月末民間在庫量及び平成26年６月末民間在庫量等を基に算出します。

表１　平成25／26年の需要実績の算出方法

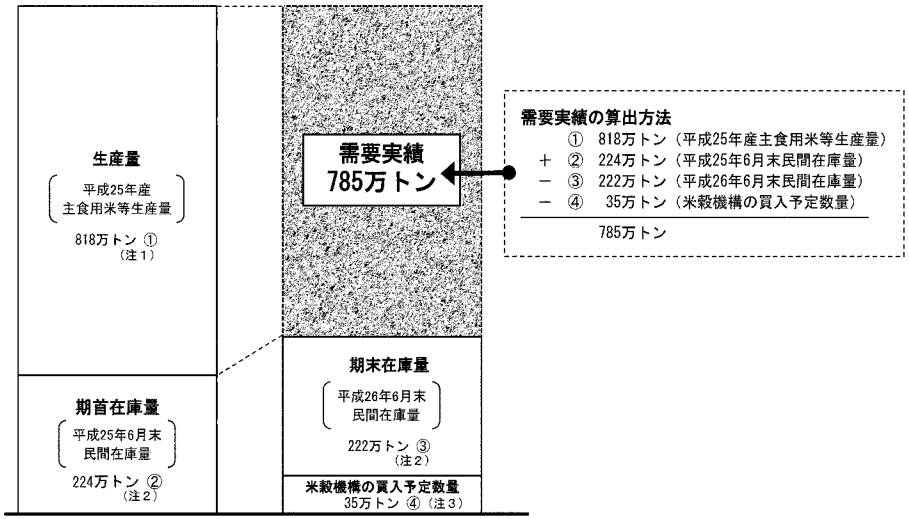
需要実績＝①＋②－③－④
- ①　平成25年産主食用米等生産量
- ②　平成25年６月末民間在庫量
- ③　平成26年６月末民間在庫量
- ④　公益社団法人米穀安定供給確保支援機構（以下「米穀機構」という。）の買入予定数量

⑶　全国の需要実績（速報値）

前記方法により算出した平成25／26年（平成25年７月から平成26年６月までの１年間）の需要実績（速報値）は、図１のとおり785万トンとなります。

なお、平成25／26年の需要実績については、平成26年11月に変更する米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（以下「基本指針」という。）における確定値報告に向け、精査を行うこととします。

図１　平成25／26年の需要実績（速報値）



注１：主食用米等生産量は、平成25年産米の水稲収穫量（主食用）（「作物統計」農林水産省大臣官房統計部）である。

注２：６月末在庫は、玄米の取扱数量が年間500トン以上の届出事業者の在庫量に10ａ以上の作付生産者の在庫量推計値を加えたものである。

注３：米穀機構においては、主食用として販売の見込みが立たなくなった平成25年産米について、主食用米の需給の安定に影響を与えない範囲内で買い入れ、飼料用、加工用等に販売することとしている。

注４：ラウンドの関係で計が一致しない場合がある。

２　全国の平成26／27年の需要見通し（推計値）

平成26／27年（平成26年７月から平成27年６月までの１年間）の全国の需要見通しについては、平成16年７月策定の基本指針において最近の米の消費量を踏まえて採用した手法により、平成８／９年（平成８年７月から平成９年６月までの１年間）以降から直近の平成25／26年までの全国の需要実績を用いてトレンド（回帰式）で算出すると、図２及び表２のとおりとなります。

図２　平成８／９年～平成25／26年の全国の需要実績を用いた算出方法

（単位：万トン）

年	x	需要量(y)
8／9	1	943.8
9／10	2	912.9
10／11	3	907.3
11／12	4	885.9
12／13	5	911.5
13／14	6	872.1
14／15	7	894.7
15／16	8	861.6
16／17	9	865.4
17／18	10	851.7
18／19	11	837.5
19／20	12	854.5
20／21	13	823.6
21／22	14	814.1
22／23	15	820.0
23／24	16	813.3
24／25	17	781.1
25／26	18	785.3 （速報値）
26／27	19	777.9 （推計値）

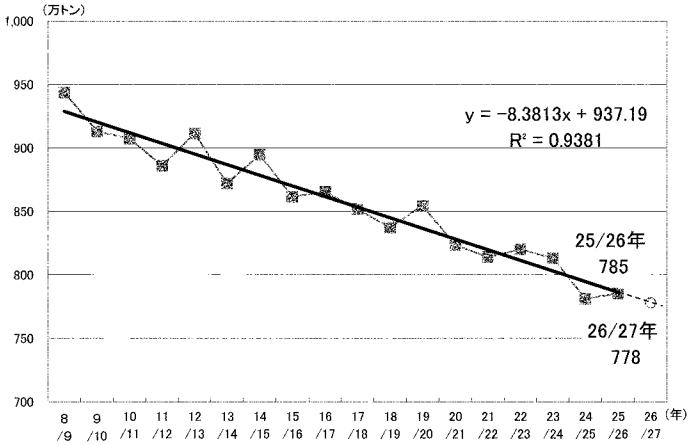


表２　平成26／27年の需要見通し（推計値）

平成26／27年	778万トン

３　平成26／27年の需給見通し

平成26／27年の需給見通しは、表３のとおりです。

⑴　供給量

①　平成26年６月末の民間在庫量（速報値）は、222万トンです。

②　平成26年産米の生産数量目標は、平成25年11月に変更した基本指針で設定した平成26年産米の全国の生産数量目標（需要量に関する情報）の765万トンです（平成26年産米の生産量は、作柄等により上下します。）。

③　この結果、平成26／27年の主食用米等の供給量の合計の見通しは、987万トンとなります。